

山口県最低生計費試算調査の結果について

—若者が人並みの暮らしをするためには、少なくとも時給 1,600 円程度が必要—

2019 年 5 月 27 日

山口県労働組合総連合

○山口県をはさんでいる 2 県の最低賃金は広島県＝844 円、福岡県＝814 円となっており、山口県の 802 円よりも高くなっている。それでは、山口県では生活費が安いのかというと、決してそのような実感はない。

○今回、山口県労働組合総連合（県労連）では、初めて山口県で労働者があたりまえの暮らしを送るために必要な費用を科学的データにもとづいて明らかにした。

○具体的には、主に県労連に加盟する各単産の労働者を対象に、生活のパターンを調べる「生活実態調査」および持ち物をどれくらい所有しているのかを調べる「持ち物財調査」を実施し、その結果を精査し生活に必要な費用をひとつひとつ丁寧に積み上げていく「マーケット・バスケット方式」によって最低生計費を算定した。

○この調査には、2029 名が回答をしている（回収率約 20%）。今回は、そのうち 10 代～30 代の実際に一人暮らしをしている 167 人分のデータを分析した結果を報告するものである。

○山口市内で若者が人並みの暮らしをするためには、男性＝月額 241,740 円、女性＝月額 242,762 円（ともに税・社会保険料込み）が必要である。これは年額に換算すると約 290 万円となる。ちなみに、昨年福岡市でも同様の調査結果が公表されたが、男性＝月額 227,536 円、女性＝月額 236,621 円であった（ともに税・社会保険料込み）。

○この生計費で想定した「人並み（あたりまえ）の暮らし」の内容は、以下のようなものである。

- ・山口市大内地区の 25 ㎡の 1K のマンション・アパートに住み、家賃は 33,000 円（共益費込み）。中古の軽自動車を所有し、通勤や買い物、レジャーに使用している。
- ・冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、掃除機などは、量販店で最低価格帯のものでそろえた。
- ・1 か月の食費は、男性＝約 37,000 円、女性＝約 29,000 円。朝晩は家でしっかりと食べ、昼食は、男性はコンビニなどでお弁当を買い（1 食あたり 400 円）、女性は昼食代を節約するために月の 2/5 は弁当を持参。そのほか、月に 2 回、同僚や友人と飲み会・ランチに行っている（1 回当たりの費用は 3,000 円）。
- ・衣服については、仕事では男性は主に背広 2 着（18,000 円）を、女性はジャケット 2 着（15,000 円）を、それぞれ 4 年間着回している。
- ・休日は家で休養していることが多い。帰省なども含めて 1 泊以上の旅行は年に 2 回で、1 回当たりの費用は 3 万円。月に 4 回は、恋人や友人と遊んだり、映画・ショッピングに行ったりして、オフを楽しんでいる（1 回 2,000 円で月に 8,000 円）。

○試算の月額を、賃金収入で得るとすると、時給換算で男性＝1,391 円、女性＝1,398 円（中央最低賃金審議会が用いる労働時間＝月 173.8 時間で除した）。さらに、一般の労働者の所定内労働時間に近い 150 時間で時給換算すると、男性で 1,612 円、女性で 1,618 円となる。

以上